

循環制御歯科学入門（高橋俊介）

Introduction to Dentistry of Circulation Control (Shunsuke Takahashi)

キーワード

- ① 口腔科学
- ② 循環制御歯科学
- ③ 生活習慣病
- ④ 口腔－全身循環相関
- ⑤ 血流依存性血管拡張反応

授業概要

高血圧・脂質異常症・糖尿病は、日常の生活習慣が発症や進行に深く関わっている生活習慣病に分類されており、自覚症状がほとんどないまま動脈硬化が静かに進行する。これらの生活習慣病のような疾患と全身及び口腔内循環との関連性を紹介し、全身と口腔の循環調節の関連性を理解し、口腔内循環機能の重要性を認識する。さらに、口腔循環に関連した当研究室の成果や他の関連文献の内容を解説し、全身⇄口腔という一連の循環機構の相互的な影響についての認識を深める。

授業科目の学修目標

末梢血管障害における全身と口腔との循環機構の関連性の認識は極めて重要であり、循環制御歯科学は口腔を含めた全身循環機構に注目した生活習慣病等の動脈硬化性疾患発生メカニズムの解明と同時に、口腔内循環を指標にした予防医療の構築までを包括する学問であり、本科目では大学院レベルにおいて必要な知識を修得することを目標とする。

授業計画

- ① 循環制御機能の基本と薬理学の意義
 - ・薬理学の歴史と研究技術の進展 2コマ 高橋俊介
 - ・循環制御機能学の基本 8コマ 高橋俊介
- ② 研究・生命・医療に関わる倫理規範と動物の取り扱い方の基本 4コマ 高橋俊介
- ③ 循環制御歯科学的研究論
 - ・生活習慣病と生体反応論 4コマ 高橋俊介
 - ・生活習慣病と歯肉組織反応論 2コマ 高橋俊介
 - ・生活習慣と末梢血管弾性－口腔血管機能反応論 4コマ 高橋俊介
 - ・生活習慣と口腔内循環による生体情報解析論 4コマ 高橋俊介
 - ・歯周病・生活習慣病の相関性理論と口腔内循環による疾病重症度解析論 2コマ 高橋俊介

教科書および参考書

- ・血管内皮機能を診る 循環器疾病管理に生かす評価と実際、南山堂、東條美奈子
- ・非侵襲的検体検査の最前線、シーエムシー出版、槻木恵一監修

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

循環制御歯科学的研究論では授業項目と循環制御歯科学分野で発表された論文や他の関連する論文を熟読し、概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 循環制御機能の基本を理解し薬理学の意義を説明できる。
- ② 循環薬理学的領域の研究・生命・医療における倫理規範を理解し応用することができる。
- ③ 循環制御歯科学的研究論を理解し実践することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
40%	0%	30%	0%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回40%
- ・レポートは、循環制御歯科学的研究論の5項目について課題を提出する。6%×5回=30%
- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

理想的な達成レベルの目安

循環制御歯科学入門の理想的な達成レベルは80%以上とする。特に、倫理的な理解に関しては100%を求める。